

8 学力の伸びを引き出した学校の取組事例

1 趣旨

ふくしま学力調査において学力の伸びを引き出した学校の効果的な取組事例をまとめ、県内の小・中・義務教育学校及び特別支援学校と共有することを通して、一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

2 作成にあたって

令和3年度は、平成31年度（令和元年度）との経年比較となるため、同一の学校で比較が可能な小学校6年生の学力の伸びに着目した。

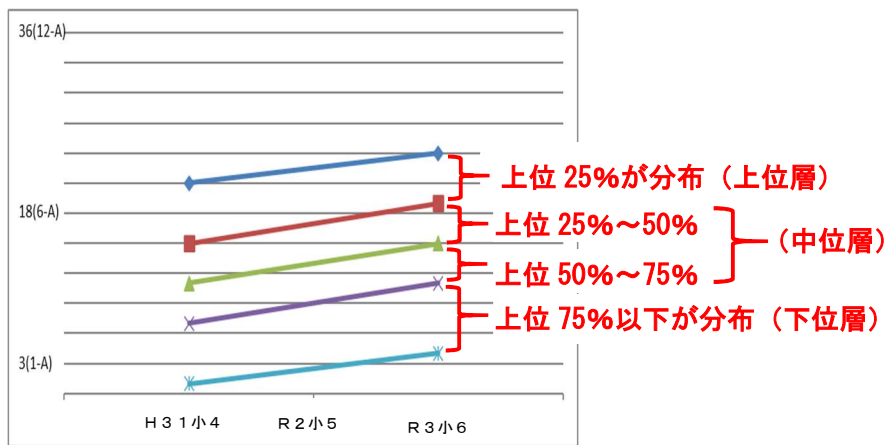
学校の規模別に国語及び算数において学力の伸びを引き出した学校から聞き取りを行い、効果が見られたと考えられる取組についてまとめた。

3 学校の規模について

- 大規模校・・・19学級以上
- 中規模校・・・12学級～18学級
- 小規模校・・・11学級以下

4 学年全体の学力の伸びの状況について

学年全体の学力の伸びの状況を、下図のように学力レベルの階層に分けて示している。この図により、学校の取組がどの学力層にとって効果的であったと考えられるかを可視化することができる。



- ◆ ⇒ 最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル(最大値)
- ⇒ 上位25%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- ▲ ⇒ 上位50%に位置する児童・生徒が属する学力レベル(中央値)
- × ⇒ 上位75%に位置する児童・生徒が属する学力レベル
- * ⇒ 最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル(最小値)

どの分布も右肩上がり	傾きにばらつき①	傾きにばらつき②
上位層、中位層、下位層のいずれの層の児童生徒も学力を伸ばしている。	上位層に伸びは見られないが、中位層、下位層の児童生徒の学力は伸びている。	上位層は伸びているが、中位層にはほとんど変化はなく、下位層の学力は下がっている。

【国語科】「振り返り」を核とした授業改善や表現活動の充実による学力向上

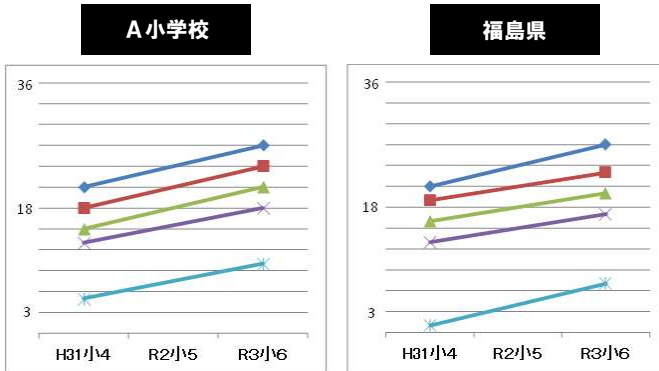
1 学校の概要

A小学校	大規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 学力レベルの最小値が県平均より高く、中・上位層の学力の伸びが大きい。
- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

①「振り返り」の充実から考える授業設計

授業の終末段階では、子どもに考えの変容を自覚させるために「振り返り」を必ず書かせた。子どもの目標達成時の姿を明確にし、「振り返り」の時間を確保した上で指導過程を逆算して授業を組み立てた。

② 教育活動全体を通じた表現活動の設定

目的意識をもたせ、表現を吟味して自分の考えを書いたり話したりする場を設けた。その上で、頑張ることができるようになった姿を必ず褒めて価値付けた。

③ 認め合う人間関係を大事にした学び合い

最初から相手を批判せず、最後まで相手の考えを聞き、判断することを大事にした。友達の考えを聞くことが自分の考えを深めることにもつながることを自覚させたことで、学びに向かう姿が積極的になった。

【国語科】 学校全体で取り組む学習の基盤づくり

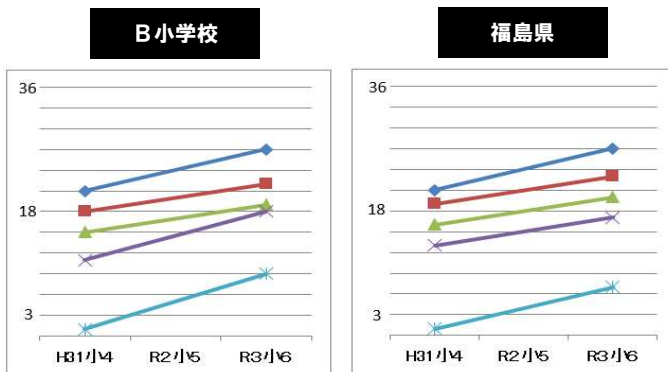
1 学校の概要

B小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位層の学力の伸びは県平均と比較してほとんど変化はない。
- 上位75%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学習に臨む心構えや約束事についての共通理解・共通実践

めあてやまとめの表記の仕方や学年、教科に応じたノートの種類など基本的な学習の約束事について、具体的にプリントにまとめ、家庭に配付した。学校全体で共通理解を図ることで、児童が迷わずに学習に取り組むことができるようにした。

② 「書くこと」における効果的な学習指導

本時のめあてとの整合性を図りながら、児童が自分の言葉でまとめを書くことを継続した。家庭学習においては、新聞を読み、要約したり感想をまとめたりする課題を与え、リーディングスキルの視点で添削した。

③ 教員同士の学び合いによる授業改善

導入の工夫や教師のコーディネート等、共通の視点を設けた上で、日常的に互見授業を行った。年齢層に関係なく、互いに学び合う文化が醸成されている。

【国語科】 授業スタンダードを軸とした学力の向上

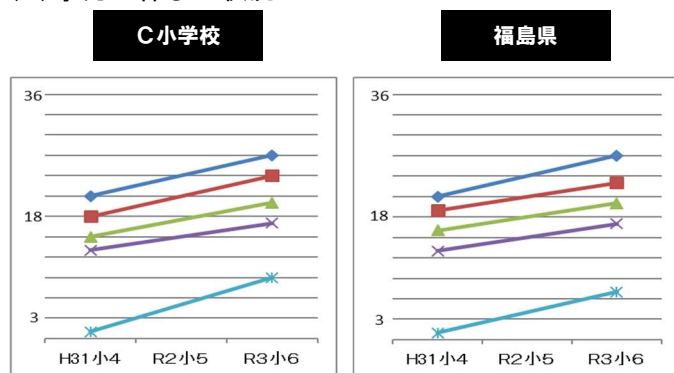
1 学校の概要

C小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルが県平均と比較して伸びている。
- 令和3年度は、学力レベルの最小値が県平均を上回っている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 学習習慣の定着

宿題やチェック表を活用し、予習・復習と学用品を忘れない習慣を定着させた。また、授業開始1分前着席と漢字豆テスト実施を徹底し、書き取りの力を育成した。

② 伝え合う力の育成

ペア・グループ内の話し合い活動を意図的に取り入れ、互いの話を聞き合い感想を伝え合うことで、話す力・聞く力を育成した。

③ 書く力の育成

単元学習に入る前に意味調べを実施し、意味調べをした言葉を使って作文をさせ、文章を書く力を育成した。

また、「振り返りノート」を活用し、学校生活について、自分の思いや考えを日常的に文章で表現する場を設定した。

【国語科】 読書推進と家庭学習計画表の活用による自己マネジメント力の育成

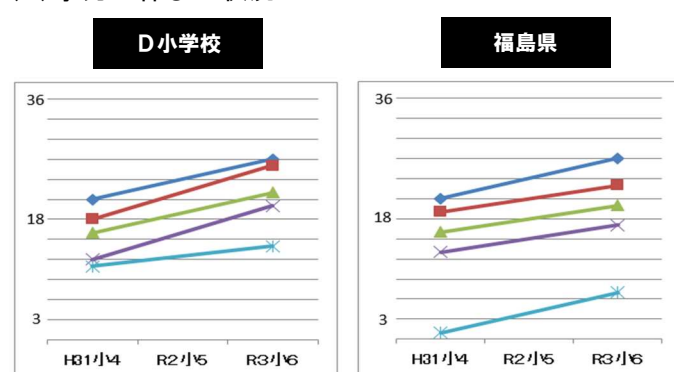
1 学校の概要

D小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 学力レベルの最小値が県平均より高く、どの学力層も県平均を上回っている。
- 上位25%及び75%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 児童一人一人に応じた読書の奨励

担任と司書が連携して、対話をしながら一人一人の興味・関心に応じた本をすすめることで、進んで読書をする児童が増えた。児童質問紙から児童が1日あたりにゲームをする時間が少なく、1ヶ月あたりの読書量が多いことが分かる。

② 家庭学習計画表を活用した自己マネジメント力の育成

全校児童が学校独自の「家庭学習計画表」を活用し、家庭学習の時間、学習内容の計画を具体的に立て、学習した後に振り返りをするすることで、家庭学習の自己マネジメント力を高めた。家庭と担任両方からの毎日の励ましのコメントが児童の家庭学習に対するやる気を高めた。

【国語科】 自分の考えを話したり書いたりする表現の場を意識した学習活動

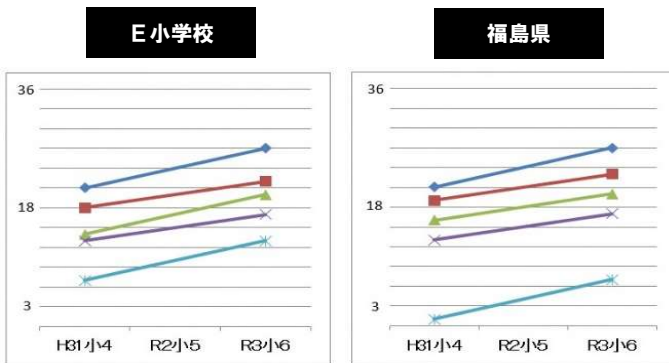
1 学校の概要

E小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが前回調査では県平均を下回っていたが、上位50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 表現を意識した自分の考えの形成

授業の中で、自分の考えを持つことの大切さを意識させながら、考えを友達に話したり、友達の考えを自分の言葉で言い換えさせたりする活動を意図的に取り入れ、音声言語による表現を意識した考えの形成を指導した。

② 意図的なアウトプットの機会の設定

説明文の読解で、事実と意見の区別、理由や根拠を意識しながら読むことを重視するとともに、学習した文章の構成を生かせるように書く活動を多く設定した。文章を要約したり筆者の考えに対して自分の考えをまとめたりするだけでなく、他の教科でも、学習の感想を書く機会などを捉え、自分の言葉でアウトプットする機会を大切にしたい。

【国語科】 身に付けたい資質・能力を明確にした指導の工夫

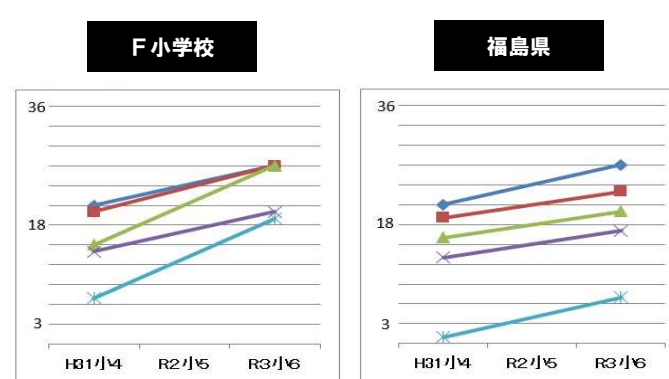
1 学校の概要

F小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- クラスの半数の児童が小学校6年での最上位の学力レベルまで向上し、中・下位層の児童の学力も伸びている。
- 学力レベルの最小値が大幅に伸びている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 身に付けさせたい力の明確化

「説明的な文章の読みの10の観点※」を設定し、教師が教材研究を深めるとともに、児童が文章を論理的に捉えられるようにした。

※ 題名、形式段落、意味段落、形式段落の主語、要点、三部構成、問いと答え、文章構成図、事例、要旨

② 適切な言語活動の設定

説明文の学習では筆者の考えや事例を読み取り、それをリーフレットにまとめるなど、単元の目標に合った言語活動を設定し、思考力、判断力、表現力等が身に付くよう、指導した。

③ ふくしまの「授業スタンダード」を踏まえた授業改善

板書やワークシートを工夫し、児童の思考過程を可視化することで、児童の思いや考えが深まるようコーディネートした。

【国語科】学校の課題を明確にした授業づくりと個に応じた指導の充実

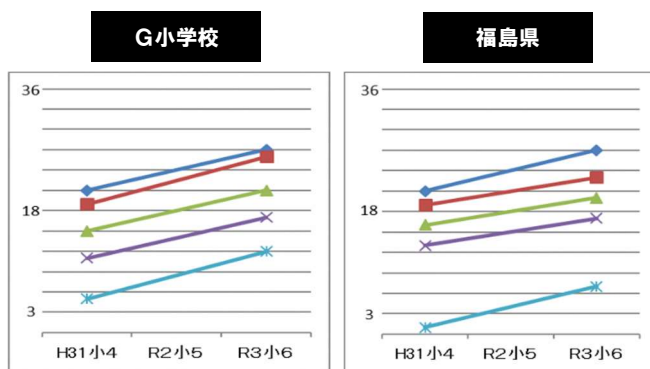
1 学校の概要

G小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(国語科)

小学校4年生→小学校6年生

(1)学力の伸びの状況



- 上位25%、50%及び75%に位置する児童の学力のレベルが大きく伸びている。
- 学力レベルの最小値が県平均を大きく上回っている。

(2)伸びを引き出した効果的な取組

① 全国学力・学習状況調査の分析

全国学力・学習状況調査の結果を分析して明らかになった学校の課題を全職員で共有し、求められている力を意識しながら全学級で授業づくりを行った。

② 個に応じた指導の充実

授業の際に一人一人の学習の状況を見取り、特に下位児のつまずきに丁寧に対応し、基本的事項の定着に努めた。

また、自主学習に熱心な児童のノートを展示したり学年通信に掲載したりした結果、少しずつ家庭学習の内容が充実していった。

③ 学びに向かう力の涵養

一人一人の学習機会を充実させるため、どの教科でも、自分の考えを友達同士で「伝える」「受け取る」活動を重視した。また、単元の終末に「〇〇新聞」を作らせることによって、自身の学習を振り返る機会を設けた。

新型コロナウイルス感染症の影響で休校となった期間にはシラバスを作成し、各家庭で教科書を基にした自主的な学習を呼びかけた結果、学校全体として、主体的に学ぼうとする意欲が高まった。

【算数科】「規律ある態度」の育成とグループでの学び合いによる学力向上

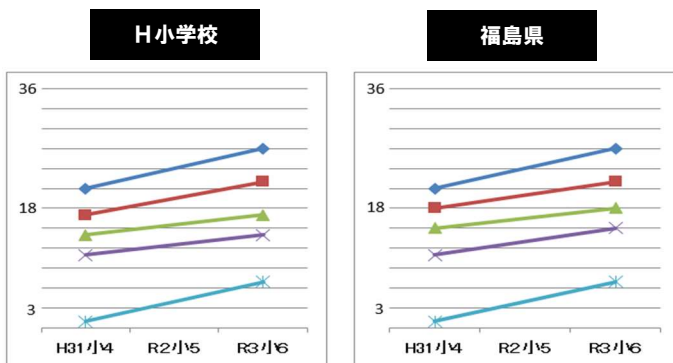
1 学校の概要

H小学校	大規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 前回調査では全体として学力レベルが県平均を下回っていたが、上位25%に位置する児童が属する学力レベルが県全体と同じレベルに達している。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 全校を挙げた規律ある態度の育成と、「学ぶ土台づくり」

落ち着いて授業に取り組むことができない傾向にある実態を踏まえ、学ぶ土台づくりを行った。校長のリーダーシップのもと「規律ある態度」(特に、靴そろえ・あいさつ・ていねいな言葉遣い等)の育成に力を入れ全校で取り組んだ。「規律ある態度」の達成率は県平均を上回っている。

② 算数の楽しさを感じさせるグループでの学び合い

グループで互いに考えを出し合いながら発展的な問題に挑戦させることで、中・上位層の児童のやる気を高めるとともに、算数を学ぶ楽しさを感じさせた。また、算数を日常の事象と結び付ける活動や具体物を扱った操作的・作業的な活動を多く取り入れることで、下位層の児童が数学的活動の楽しさを感じることができるようにした。

【算数科】 振り返りから学びの好循環を生み出すことによる学力向上

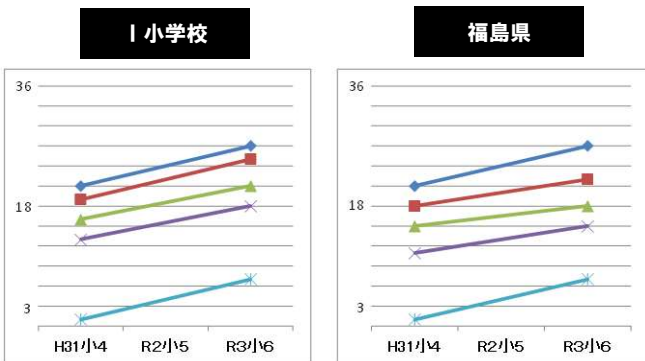
1 学校の概要

I小学校	中規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位75%に位置する児童が属する学力レベルが高く、中・上位層の学力の伸びが大きい。
- 上位25%及び50%に位置する児童が属する学力レベルが特に大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 自分の考えを「書く」活動を重視した授業展開

授業では、式や言葉で書いて説明させる活動を通して、自分の考えが整理されることを実感させた。特に、「振り返り」は必ず書かせ、その中の「気づき」を取り上げて広げるようにすることで、自己の学びを振り返る視点を身に付けさせた。

② 授業との関連を図り「自己マネジメント力」を育成する家庭学習

全校で自主学習に取り組んでいる。「家庭学習スタンダード」を活用するとともに、中学校の家庭学習の手引きの例を紹介した。授業で学習したことをまとめ直したり、もっと知りたいことを調べたり、予習をしたりするなどして家庭学習が充実し、レディネスの高まりが授業の質的改善につながった。

【算数科】 学びの連続性を意識した自己マネジメント力の育成

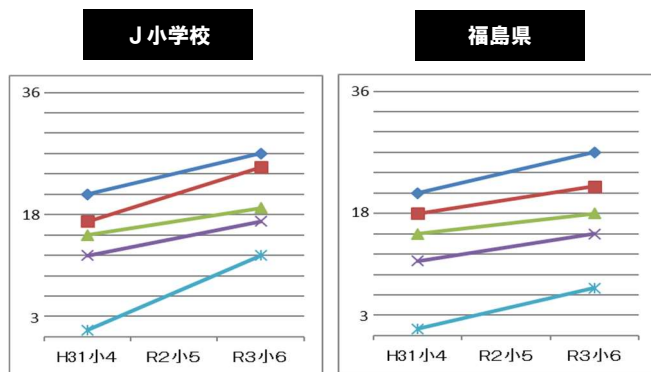
1 学校の概要

J 小学校	小規模校
-------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。
- 令和3年度は、学力レベルの最小値が県平均を大きく上回っている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 学習サイクルの習慣化

学び続ける態度を養うために、「授業→家庭学習→(朝や昼の学習)→授業」というサイクルの習慣化を目指し、日課表の朝と昼に「チャレンジタイム」を設定した。1人1台端末の授業支援ソフトに収録されたドリルや、「活用力育成シート」などもこの時間を活用して実施した。

② 「調べ、考え、表現する」を中心とした家庭学習

活用型の家庭学習や予習といった課題にも定期的に取り組み、思考過程を自分なりの方法で可視化する学びを積み重ねている。

③ 規則正しい生活習慣の育成

家庭での生活と学習を振り返り、家族の団らんや家庭内での読書を推奨する日を毎月3回設定した。家庭との連携の下、規則正しい生活習慣を育成することで学習の基盤づくりに努めた。

【算数科】 家庭学習と授業をつなげた意図的・計画的な指導

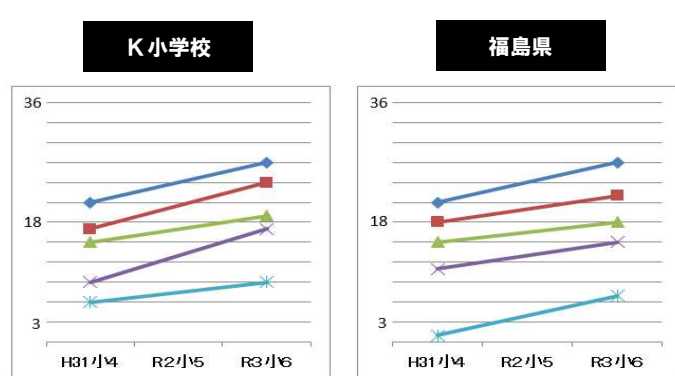
1 学校の概要

K 小学校	小規模校
-------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- どの学力層でも県平均を上回っている。
- 特に上位25%及び75%に位置する児童が属する学力レベルが大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 家庭学習を効果的に活用した授業

家庭学習と授業のつながりを、児童及び教師とで日常的に意識した。週1回程度、タブレット端末を家に持ち帰り、導入型反転授業を行うことで、家庭学習の取組の目的や意味をさらに高めた。

② 学習した知識・技能を活用する活動の設定

適用問題に取り組む時間を単元の中に位置付け、知識・技能の確実な定着を図った。また、クラウド上の学習ログを適宜活用し、既習内容を生かした学習を展開した。

③ 学ぶ意欲を引き出すしかけ

授業において、学習内容と日常生活を関連付けた指導を繰り返すことで、児童に算数を学ぶ有用性を実感させた。また、定期的に自主学習ノートを開スペースに展示し、教師だけでなく、子ども同士による称賛の機会を設定した。

【算数科】 複式指導の充実により主体的な学びを引き出し、学力を伸ばす

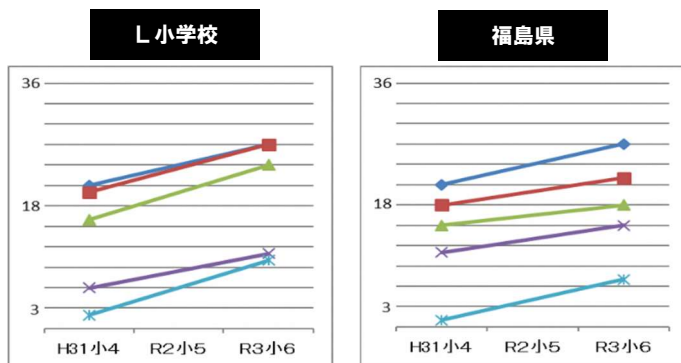
1 学校の概要

L小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童が属する学力レベルは学年の最上位の学力レベルであり、上位50%に位置する児童が属する学力レベルも県平均を上回っている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

- ① 学習リーダーを活用した複式指導の充実
担任が学習リーダー(輪番制)と打合せをし、他学年の指導に入った際に児童のみで学習を進められるようにした。分からないところは児童同士で教え合うスタイルが定着し、主体的な学びにつながった。課題が終わると自分からワークやドリル学習に進むことができた。
- ② 個別学習の充実
単元を通して習熟を図るプリントを準備しておき、空いている時間に自分のペースで進められるようにした。単元末に復習の時間を設け、個別指導の充実を図った。
- ③ ペア活動・話し合い活動・振り返りの充実
全員発表の時間を設け、友達の考えと自分の考えを比較したり、根拠を明確にして説明したりできるよう意識を高めた。振り返りも自分の言葉でまとめるようにした。

【算数科】 授業スタンダードをもとにした主体的な学び

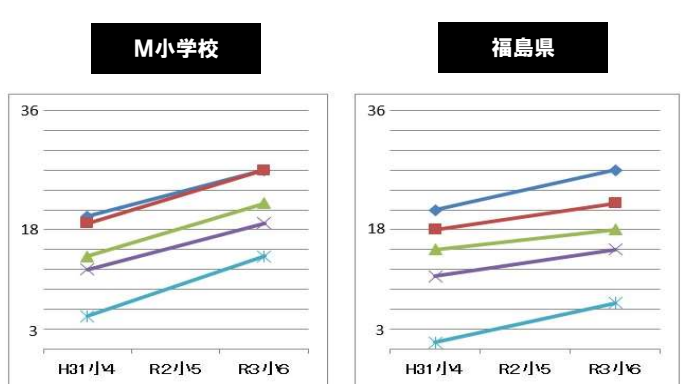
1 学校の概要

M小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位25%に位置する児童の属する学力レベルが学年の最上位の学力レベルに達している。
- 下位層まで全体的に学力が大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

- ① 「授業スタンダード」を踏まえた導入及び展開
教材提示を工夫して学習意欲を高め、子どもの「問い」や「思い」を引き出す学習課題を設定した。また、見通しや考えを持てるように工夫した。
- ② 個々の考えを共有・吟味させる教師のコーディネート
図と式を関連付けて比較検討させた。また、働かせたい数学的な見方・考え方を意識した発問及び問い返しをしたり、児童にとって必要感のある学び合いの場面を設定したりした。
- ③ 学びを自覚させる振り返りの設定
まとめに使わせたいキーワードを意識して、構造的な板書をするとともに、活用力を高める適用問題に取り組みさせるなどし、振り返りの場面で新たな学びを促した。

【算数科】学習の「基盤」「授業」「家庭学習とのリンク」を柱にした継続実践

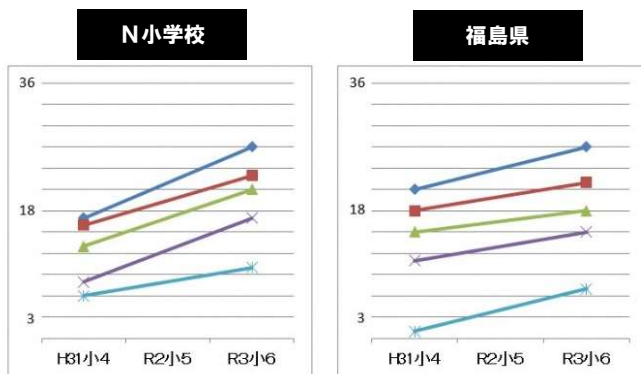
1 学校の概要

N小学校	小規模校
------	------

2 平成31年度・令和3年度の結果(算数科)

小学校4年生→小学校6年生

(1) 学力の伸びの状況



- 上位75%以上に位置する児童が属する学力レベルが前回調査では県平均をそれぞれ下回っていたが、今回は県平均以上に大きく伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

① 授業の基盤づくり

互いを認め合い、高め合う集団づくりに努めた。特に、他者の考えを聞く指導と称賛を重点とし、継続して指導した。

② 「授業スタンダード」を生かした授業づくり

一人一人の問題解決の過程を支えるために、数学的な表現を用いて説明する活動や「事実」、「過程」及び「根拠」を問う発問を工夫するとともに、次時につながる振り返りの時間の確保に努めた。

③ ICTの効果的な場面での活用

単元や学習過程、児童の理解に応じてタブレットや電子黒板を活用した。考える対象の焦点化・考えの共有を大切にしてきた。

④ 「家庭学習スタンダード」の自校化と継続

家庭学習の進め方の指導を徹底し、児童の自主学習に朱書きでコメントを入れ、校内に掲示することを継続し、意欲と自信が育まれるようにした。